

令和2年度 学校評価のまとめ

県立上山高等養護学校

1 アンケート全体から

- ・平成30年度、令和元年度と比較した結果は以下のとおりである。
生徒の評価は全体的に高い評価となった。
保護者の評価、教職員の評価は、令和元年度とほぼ同様。
三者とも共通して評価が低いのは、地域との関わりに関する項目。

2 生徒のアンケート結果

(1) 評価の高い項目

- ・「清潔面や身だしなみが身についている。」 95
- ・「安全・安心な学校生活を送っている。」 95
- ・「寄宿舎生 寄宿舎の先生は自分のことを分かってくれる。」 95
- ・過去3年間と比較すると、「気軽に相談できる先生がいる。」の項目に大きな伸びが見られる。

(2) 評価の低い項目

- ・「地域のために役に立ったり、地域の人と関わったりして活動することができた。」 82

(3) 昨年度より評価が上がった項目

- ・大きく上がった項目は9「気軽に相談できる先生がいる。」前年度比+7

(4) 昨年度より評価が下がった項目

- ・大きく評価下がった項目はない。

3 保護者のアンケート結果

(1) 評価の高い項目

- ・「お子さんと保護者の相談に、担任、担当者は親身に対応している。」 95
- ・「お子さんは安心安全な学校生活を送っている。」 94
- ・「学校はお子さんの学校での様子を十分に知らせている。」 94
- ・回答数は少ないが寄宿舎生の保護者のみの項目

(2) 評価の低い項目

- ・「地域に開かれた学校になっている。生徒達は地域と関わって活動している。」 77
- ・「お子さんは、挨拶や身だしなみなど基本的な生活習慣が身についている。」 85
- ・「お子さんは、自分の目標に向け、考えたり行動したりしている。」 86
- ・「お子さんは、生活に必要な力や働く力が身についている。」 86
- ・「お子さんは、社会・学校のマナー・ルールを守って生活している。」 87

(3) 昨年度より評価が上がった項目

- ・大きく上がったわけではないが、1～3、5～8、11、13 舎17

(4) 昨年度より評価が下がった項目

- ・大きく下がった項目は12「地域に開かれた学校になっている。生徒たちは地域と関わって活動している。」（前年度比-10）

4 教職員のアンケート結果

(1) 評価の高い項目

- ・ 90点以上の項目は、11「保護者に学校や寄宿舎での様子を丁寧に知らせている。」

(2) 評価の低い項目

- ・ 「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている。」 61（前年度比-3）
- ・ 「働きやすい職場となっている。」 70（前年度比+3）

(3) 昨年度より評価が上がった項目

2、3、5～7、11、14～17

- ・ 14「生徒指導、進路指導など、学校と寄宿舎、各学年間が連携し組織的な対応をしている。」 78 → 83
- ・ 2「生徒は自分の目標に向け、考えたり行動したりしている。」 76 → 84

(4) 昨年度より評価が下がった項目

- ・ 1「生徒にとって充実した学校生活（寄宿舎生活）を提供している。」 83 → 80
- ・ 19「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている。」 64 → 61

5 まとめと考察

(1) 生徒にとって「成長を実感できる学校」にするために

- ・ 多くの生徒は、学校生活が充実していると感じている。いじめとして認知されるものはあるが、早期に発見、対応したことにより、学校生活も安全だと感じている。
- ・ 生徒は、仲間との関わり、協力などにより学校生活を楽しんでいる。また、学習において、うまくできたり、ほめられたりしたことをうれしく感じている。
 - 1年生…新しい友達ができたこと、友達と楽しく活動していること
 - 2、3年生…友達や教員とのかかわり、職業科でうまくできたことを実感できたこと、実習で頑張ったこと

(2) 保護者にとって「安心して任せられる学校」にするために

- ・ 多くの保護者は、子どもへの親身な対応などで、「安心して任せられる学校」として信頼している。しかし、教職員の対応について、不信感を覚えた保護者もいる。
- ・ 生徒や保護者からは、全体的に高い評価を得ている。平成28年度後半から、「傾聴と共感」の教職員の姿勢について、全員で継続して共通理解を図ってきたからだと考えられる。

(3) 地域や関係機関にとって「信頼できる開かれた学校」にするために

- ・ 「信頼できる開かれた学校」の評価は、生徒は昨年とほぼ同じ、保護者、教職員は少しだけ上がったものの他の項目から比べると評価は低い。本校における「社会に開かれた教育課程」の取組について、再確認していく。
- ・ 本校の教育活動等について、情報発信を積極的に行っていく。職業科の製品販売や地域の方との学習について積極的に発信する（マスコミや地域施設との連携）。

(4) 教職員にとって「働きやすく働きがいのある学校」にするために

- ・ 教職員は、働きがいは感じているが多忙感・負担感を覚えたり、働きやすい職場になってはいないと感じたりしている。